



2023年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年10月28日

上場会社名 富士紡ホールディングス株式会社
 コード番号 3104 URL <https://www.fujibo.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 井上 雅偉

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 吉田 和司

TEL 03-3665-7612

四半期報告書提出予定日 2022年11月11日

配当支払開始予定日

2022年12月6日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 決算説明動画(録画)配信予定

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	19,609	11.4	3,343	6.3	3,406	5.4	2,307	2.3
2022年3月期第2四半期	17,609	1.1	3,145	9.1	3,230	9.1	2,255	10.7

(注)包括利益 2023年3月期第2四半期 2,589百万円 (13.1%) 2022年3月期第2四半期 2,289百万円 (6.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	201.31	
2022年3月期第2四半期	196.88	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	61,295	42,482	69.3
2022年3月期	58,531	40,497	69.2

(参考)自己資本 2023年3月期第2四半期 42,482百万円 2022年3月期 40,497百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		55.00		55.00	110.00
2023年3月期		55.00			
2023年3月期(予想)				55.00	110.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	37,200	3.6	6,200	5.5	6,400	5.9	4,500	1.0	392.50

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

注)詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期2Q	11,720,000 株	2022年3月期	11,720,000 株
2023年3月期2Q	252,507 株	2022年3月期	260,399 株
2023年3月期2Q	11,463,008 株	2022年3月期2Q	11,456,432 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法)

当社は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響を考慮し、従来開催していた決算説明会に代えて、2022年11月2日(水)に決算説明の概要を録画した動画及び説明会資料を当社ホームページにて公開する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が続くなか、ワクチン接種の進行とともに、社会経済活動の再開に向けた行動制限の段階的緩和により、景気回復が図られております。しかしながら、新たな変異株の流行による感染再拡大の影響、米国の金利上昇による急激な円安進行や長期化するウクライナ情勢の影響による資源価格の高騰、物価上昇に伴う個人消費の低迷が懸念されるなど、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような経営環境の下、当フジボウグループは、中期経営計画『増強21-25』において、計画期間5年間の前半3年を「高収益体質への転換と種まき」ステージと位置づけ、各事業の成長基盤の増強に取り組んでおります。計画2年目となる当連結会計年度は、研磨材事業では、研究開発力の加速、生産能力の増強を進めました。化学工業品事業では、柳井・武生両工場がフル稼働を続けており、原材料高騰の影響が大きい生活衣料事業では、コスト最適化とコストアップに対応した価格改善に努めました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期比1,999百万円(11.4%)増収の19,609百万円となり、営業利益は197百万円(6.3%)増益の3,343百万円、経常利益は175百万円(5.4%)増益の3,406百万円となりました。これに特別損益、法人税等を加減した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比52百万円(2.3%)増益の2,307百万円となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。

①研磨材事業

主力の超精密加工用研磨材は、ハードディスク用途および液晶ガラス用途は、巣ごもり需要一巡後の反動減により、主要ユーザーの一部が生産調整および在庫調整を実施し、受注が減少しました。一方、シリコンウエハー用途および半導体デバイス用途(CMP)などは旺盛な半導体需要に、世界的な半導体不足が拍車をかけ、需要が拡大しました。

この結果、売上高は前年同期比1,170百万円(16.0%)増収の8,507百万円となり、営業利益は191百万円(9.7%)増益の2,178百万円となりました。

②化学工業品事業

機能性材料、医薬中間体および農薬中間体などの受託製造は、国内需要の回復に加え、中国における環境規制の影響や新型コロナウイルス感染症拡大による海外生産リスクも顕在化したことで、化学工業品生産の日本国内回帰の傾向が続き、農薬用、機能性材料用を中心に安定生産を継続することができました。また、売上は順調に推移したものの、原材料・原燃料の高騰の影響を受け、利益は圧迫されました。

この結果、売上高は前年同期比551百万円(9.9%)増収の6,130百万円となり、営業利益は33百万円(4.5%)減益の701百万円となりました。

③生活衣料事業

生活衣料事業は、コロナ感染の拡大と収束を繰り返すなか、繊維素材は、原燃料や物流費の高騰、さらに円安の影響を受け、コストが大幅に上昇し、厳しい環境が続きました。一方、繊維製品は、より収益性の高い製品への絞り込みに加え、変化する顧客行動に対応したEC販売の更なる強化により、需要が堅調に推移しました。

この結果、売上高は前年同期比126百万円(3.6%)増収の3,632百万円となり、営業利益は1百万円(0.3%)増益の400百万円となりました。

④その他

化成品部門は、デジタルカメラ用部品および医療機器用部品は、部品・部材の供給不足が徐々に解消しつつあり、需要が回復しました。また、金型部門は、自動車業界が半導体不足による減産が続くなか、需要が堅調に推移し、回復しました。なお、11月1日付で取得する子会社株式の取得関連費用が発生しました。貿易部門は、収益性、安全性の高い取引を対象を絞り、採算性を改善しました。

この結果、売上高は前年同期比151百万円(12.7%)増収の1,338百万円となり、営業利益は37百万円(146.7%)増益の63百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

資産合計は前連結会計年度末に比べて2,763百万円増加の61,295百万円となりました。

流動資産は2,226百万円増加の24,771百万円となりましたが、これは有償支給に係る資産などのその他流動資産が減少しましたが、売上債権や棚卸資産が増加したことによります。

固定資産は537百万円増加の36,524百万円となりましたが、これは研磨材事業や化学工業品事業における設備投資により有形固定資産が増加したことなどによります。

(負債)

負債合計は前連結会計年度末に比べて778百万円増加の18,813百万円となりました。

流動負債は909百万円増加の12,386百万円、固定負債は130百万円減少の6,426百万円となりました。これは、設備関係支払手形などのその他流動負債が増加したことなどによります。

(純資産)

純資産合計は前連結会計年度末に比べて1,985百万円増加し、42,482百万円となりました。これは、剰余金の配当による減少が630百万円ありましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加が2,307百万円あったことなどによります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローにつきましては、売上債権や棚卸資産が増加しましたが、税金等調整前四半期純利益や減価償却費の計上などにより2,126百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローにつきましては、主として固定資産の取得による支出により、1,005百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローにつきましては、借入金の返済や配当金の支払などにより、699百万円の支出となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べて493百万円増加の8,808百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期第2四半期連結累計期間の業績は、研磨材事業が旺盛な半導体需要に支えられ堅調に推移したこと等から、売上・利益ともに期初の予想を上回る結果となりました。しかしながら、第3四半期以降の業績につきましては、原材料高騰などによるコストアップに加えて、半導体市場が生産調整の局面に入りつつあることから不透明感が増しております。このような状況を踏まえ、2022年5月13日に公表した通期連結業績予想の売上高を36,500百万円から37,200百万円に上方修正しておりますが、利益については修正していません。

なお、業績予想は現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、実際の数値は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,330	8,825
受取手形及び売掛金	8,510	9,415
商品及び製品	1,103	1,424
仕掛品	2,098	2,496
原材料及び貯蔵品	1,321	1,774
その他	1,196	852
貸倒引当金	△16	△17
流動資産合計	22,544	24,771
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	10,072	10,330
機械装置及び運搬具（純額）	7,672	7,541
土地	13,798	13,851
その他（純額）	1,029	1,350
有形固定資産合計	32,572	33,074
無形固定資産	605	559
投資その他の資産	2,808	2,889
固定資産合計	35,987	36,524
資産合計	58,531	61,295

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,955	4,884
電子記録債務	928	1,078
短期借入金	1,306	1,418
未払法人税等	754	927
賞与引当金	648	709
その他	2,882	3,368
流動負債合計	11,476	12,386
固定負債		
長期借入金	60	30
退職給付に係る負債	4,376	4,287
資産除去債務	324	332
その他	1,797	1,777
固定負債合計	6,557	6,426
負債合計	18,034	18,813
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,673	6,673
資本剰余金	2,196	2,206
利益剰余金	29,676	31,353
自己株式	△530	△515
株主資本合計	38,015	39,718
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	632	631
繰延ヘッジ損益	1	0
土地再評価差額金	1,540	1,540
為替換算調整勘定	334	622
退職給付に係る調整累計額	△27	△31
その他の包括利益累計額合計	2,481	2,763
非支配株主持分	0	0
純資産合計	40,497	42,482
負債純資産合計	58,531	61,295

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	17,609	19,609
売上原価	11,039	12,570
売上総利益	6,569	7,038
販売費及び一般管理費	3,423	3,694
営業利益	3,145	3,343
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	26	30
固定資産賃貸料	143	174
その他	17	13
営業外収益合計	188	219
営業外費用		
支払利息	6	6
固定資産賃貸費用	37	40
為替差損	14	65
その他	45	43
営業外費用合計	103	156
経常利益	3,230	3,406
特別利益		
固定資産売却益	2	2
投資有価証券売却益	0	—
特別利益合計	2	2
特別損失		
固定資産処分損	45	40
減損損失	7	0
その他	10	—
特別損失合計	63	40
税金等調整前四半期純利益	3,170	3,367
法人税、住民税及び事業税	887	1,014
法人税等調整額	27	45
法人税等合計	915	1,059
四半期純利益	2,255	2,307
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,255	2,307

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	2,255	2,307
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△30	△1
繰延ヘッジ損益	△1	△1
為替換算調整勘定	69	288
退職給付に係る調整額	△4	△3
その他の包括利益合計	33	281
四半期包括利益	2,289	2,589
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,289	2,589
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,170	3,367
減価償却費	1,638	1,483
のれん償却額	24	24
減損損失	7	0
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	1
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	4	△99
受取利息及び受取配当金	△27	△31
支払利息	6	6
為替差損益(△は益)	3	1
固定資産売却損益(△は益)	△2	△2
固定資産処分損益(△は益)	45	40
投資有価証券売却損益(△は益)	△0	—
売上債権の増減額(△は増加)	442	△866
棚卸資産の増減額(△は増加)	△152	△1,092
仕入債務の増減額(△は減少)	746	54
その他	△165	35
小計	5,741	2,923
利息及び配当金の受取額	27	31
利息の支払額	△6	△6
補助金の受取額	370	30
法人税等の支払額	△1,070	△851
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,061	2,126
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△3,089	△976
有形及び無形固定資産の売却による収入	7	2
有形固定資産の除却による支出	△85	△27
投資有価証券の取得による支出	△2	△2
投資有価証券の売却による収入	13	—
その他	17	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,140	△1,005
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	16
長期借入金の返済による支出	△59	△57
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△627	△627
リース債務の返済による支出	△20	△30
財務活動によるキャッシュ・フロー	△707	△699
現金及び現金同等物に係る換算差額	10	71
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,223	493
現金及び現金同等物の期首残高	4,571	8,315
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,795	8,808

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

原価差異の繰延処理

定期的な修繕が特定の四半期に行われるために発生する原価差異は、予定原価が年間を基礎に設定されており、原価計算期間末までに解消が見込まれるため、当該原価差異を繰り延べて処理する方法を採用しております。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	研磨材 事業	化学 工業品 事業	生活衣料 事業	計				
売上高								
顧客との契約から 生じる収益	7,336	5,579	3,505	16,421	1,187	17,609	—	17,609
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	7,336	5,579	3,505	16,421	1,187	17,609	—	17,609
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	—	0	0	—	0	△0	—
計	7,336	5,579	3,506	16,422	1,187	17,609	△0	17,609
セグメント利益	1,986	734	399	3,120	25	3,145	0	3,145

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、自動車関連事業および化成品事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去が含まれております。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	研磨材 事業	化学 工業品 事業	生活衣料 事業	計				
売上高								
顧客との契約から 生じる収益	8,507	6,130	3,632	18,270	1,338	19,609	—	19,609
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	8,507	6,130	3,632	18,270	1,338	19,609	—	19,609
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	—	1	1	—	1	△1	—
計	8,507	6,130	3,634	18,272	1,338	19,610	△1	19,609
セグメント利益	2,178	701	400	3,279	63	3,343	△0	3,343

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、自動車関連事業および化成製品事業等を含んでおります。
2 セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去が含まれております。
3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。